

文献

- Guyton, A. C. & Hall, J. E. (2004). ガイトン生理学. 御手洗玄洋訳(2010). エルビゼア・ジャパン株式会社.
- 浅見 久子, 東海林 みゆき, 太田 久美他(2000). 産褥早期の疲労と関連要因 分娩歴による分析. 日本看護学会論文集: 母性看護, (31), 70-72.
- 江守 陽子(1981). 産褥期の疲労感について 自覚症状調査表の分析から. 母性衛生, 22(2), 52-57.
- 江守 陽子(2001). 産褥早期の疼痛と褥婦の心身の状態との関連. 心身医学, 41(6), 447-455.
- 福島富士子(2013). なぜ今「産後ケア」が求められるのか 母子に寄り添い必要な支援を考える. 助産雑誌, 67(10), 800-806.
- 儀間 繼子, 仲村 美津枝, 大嶺 ふじ子他(2006). 妊娠中の運動が分娩に及ぼす影響. 母性衛生, 47(2), 358-364.
- Hardman, T. H. (2012). NANDA-I 看護診断 定義と分類 2012-2014. 日本看護診断学会訳. 医学書院.
- 服部 律子, 中嶋 律子(2000). 産褥早期から産後 13 ヶ月の母親の疲労に関する研究(第 1 報) 疲労感の推移と関連する要因. 小児保健研究. 59(6), 663-668.
- Insana, S. P. & Montgomery-Downs, H. E. (2010). Maternal postpartum sleepiness and fatigue: Associations with objectively measured sleep variables. Journal of Psychosomatic Research, 69, 467-473.
- 石山 絢佳, 加納 尚美(2013). 産褥早期における褥婦の疲労に関連する要因. 茨城県母性衛生学会誌. (31), 11-15.
- 片桐由起子, 青木千津, 宗晶子他(2010). 高齢妊娠・分娩の現状 挙児希望の背景と妊娠の成立, 分娩の現状. 産婦人科の実際, 59(2), 161-165.
- 加藤尚美(2006). 回復は育児を快適にする 産褥復古への支援 会陰縫合部痛. ペリネイタルケア, 25(3), 216-217.
- 加藤尚美(2010). 産後の早期退院への支援を行うために. 助産雑誌, 64(4), 296-301.
- 勝川由美, 坂梨薫, 臼井雅美他(2010). 産褥入院の現状と入院期間短縮化の条件 全国調査の結果から. 助産雑誌, 64(4), 302-306.
- 河田みどり, 池邊敏子, 千葉県看護協会助産師職能委員会(2013). 産後の疲労と授乳の関連.

- 千葉科学大学紀要, (6), 103-110.
- 川合育子, 清野喜久美, 村松幸他(1991). 産褥期疲労の経時的変動と関連要因 産褥 1 週間の疲労要因の解析. 母性衛生, 31(4), 631-632.
- 川村萌美, 和智志げみ, 永見桂子(2013). 産褥早期の褥婦の疲労に及ぼすバックケアの効果. 三重県立看護大学紀要, 16, 27-33.
- 菊地 さやか, 富田 幸世, 徳田 勇三子他(2006). 分娩経過と産後疲労の関連 日本産業協会選定自覚症状調査表を用いて. 神奈川母性衛生学会誌, 9(1), 25-28.
- 厚生労働省雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課(2011). 平成 23 年度版 働く女性の実情 第 2 章 女性の継続就業 全員参加型の社会を目指して 全体版. <http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujo/11.html> [2014-07-07]
- 厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態・保健社会統計課(2013). 平成 24 年(2012)人口動態統計(確定数)の概況. http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei12/dl/08_h4.pdf [2014-07-07]
- 厚生労働省大臣官房統計情報部(2014). 平成 26 年 我が国の人口動態 平成 24 年までの動向. <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/81-1a2.pdf> [2014-07-07]
- 栗田佳江, 市江和子, 宮武陽子他(2014). 女性の妊娠と睡眠・疲労への支援に関する文献検討. 看護学研究紀要, 2(1), 49-54.
- 港 万里子, 五十嵐 たか子, 吉井 頼子他(1989). 入院中の産褥疲労についての一考察. 日本看護学会集録, 20(母性看護), 62-65.
- 百枝幹雄(2012). 働く妊婦を支援するために役立つ知識. 助産雑誌, 66(4), 302-307.
- 森恵美(2013). 助産師基礎教育テキスト 2013 年度版 第 4 巻 妊娠期の診断とケア. 日本看護協会出版会.
- 村上 明美, 喜多 里己, 神谷 桂(2008). 産褥早期の母親に対する癒しケアが産後の疲労と母乳育児に及ぼす影響. 日本助産学会誌, 22(2), 136-145
- 長川トミエ, 松本一弥(2002). 妊婦・褥婦の精神身体状態と PG 濃度 POMS 尺度を用いて. 母性衛生, 43(4), 463-472.
- 永瀬 つや子, 村木 敏明, 小松 美穂子他(2005). 産褥女性の日常生活身体活動量と不安・疲労の変化 初産婦と経産婦の比較. 南九州看護研究誌, 3(1), 33-42.
- 中北充子(2011). 産褥早期の女性の自律神経活動とリラックス感 経時的変化と変化に影響を及ぼす要因の検討. 日本助産学会誌, 25(2), 191-202.

- 南山堂(2006). 南山堂医学大辞典(19). 南山堂
- 日本疲労学会分科会臨床評価ガイドライン委員会(2010). 抗疲労臨床評価ガイドライン.
<http://www.hirougakkai.com/guideline.pdf> [2015-01-27]
- 日本産科婦人科学会, 日本産婦人科医会編集・監修(2014). 産婦人科診療ガイドライン 産科編 2014 CQ107 妊娠中の運動は?. 日本産科婦人科学会事務局, 103-104.
- 西脇真子, 沖田幸子, 石川ゆかり他(1990). 褥婦の疲労感が及ぼす影響について. 母性衛生, 31(2), 179-181.
- 尾木(奥田)悦子, 後藤節子, 水野妙子(2012). 妊娠 8 ヶ月(28~32 週)の心身疲労状態に関する研究. 母性衛生, 53(2), 322-328.
- 岡本喜代子(2013). 産後ケアの現状と課題. 助産師, 67(4), 8-9.
- 岡山 久代, 飯田 美代子, 玉里 八重子(2004). 産褥早期の褥婦の身体活動・休息と主観的疲労感の関係 入院形態及び授乳形態による比較. 日本看護医療学会雑誌, 6(1), 5-14.
- 奥田千恵子(2011). 医薬研究者の視点からみた道具としての統計学(2). 金芳堂.
- 尾上浩隆(2009). 最新・疲労の科学 日本発 抗疲労・抗過労への提言 疲労の科学とメカニズム 睡眠障害と疲労 睡眠不足がもたらす脳への危険性. 医学のあゆみ 228(6), 626-632.
- 大澤純子, 古屋敷智美(2005). 授乳方法の違いにおける母親の疲労 産後 1 ヶ月間の比較. 日本看護学会論文集: 母性看護, (36), 20-22.
- 小塩真司(2014). SPSS と Amos による心理・調査データ解析 因子分析・共分散構造分析まで(2). 東京書籍.
- 尾筋淑子, 松村恵子(2012). 母親の精神的ストレスが母乳成分に及ぼす影響. 香川母性衛生学会誌, 12(1), 38-46.
- Rychnovsky, J. & Hunter, L. P. (2009). The relationship between sleep characteristics and fatigue healthy postpartum women. Women's Health Issues, 19, 38-44.
- 佐々木里保, 遠藤香代子(2009). リラクゼーションマッサージの効果 産褥期の疲労感への援助. 竹内総合病院医学雑誌, 35, 87-97.
- 新村出編(2008). 広辞苑(6). 岩波書店
- 東海林 みゆき, 浅見 久子, 太田 久美他(2000). 産褥早期の疲労と関連要因 育児状況の分析. 日本看護学会論文集: 母性看護, (31), 73-75.
- 城憲秀(2002). 新版「自覚症しらべ」の提案と改訂作業経過. 労働の科学, 57(5), 31-36.

- 杉原喜代美, 高橋ゆかり(2007). 育児期にある母親の背景要因が睡眠感、疲労感に及ぼす影響. ヘルスサイエンス研究, 11(1), 13-18.
- 杉原喜代美, 市江和子(2008). 経産婦の妊娠期・育児期における育児支援の課題 睡眠・疲労を中心とした睡眠日誌とインタビュー内容の分析から. ヘルスサイエンス研究, 12(1), 37-44.
- 杉原喜代美, 高橋千晶(2013). 妊娠期にある女性の背景要因が睡眠感、疲労感に及ぼす影響. 看護学研究紀要 1(1). 21-27.
- 内田美穂, 和田高士(2010). 加齢に伴う女性の身体的変化. 産婦人科の実際, 59(2), 143-151.
- 上田真寿美, 足達淑子, 田中みのり他(2014). 産後の身体活動と精神的健康度の関連 初産婦と経産婦の比較. 母性衛生, 55(2), 350-359.
- 和田攻, 南裕子, 小峰光博編(2010). 看護大辞典(2). 医学書院.
- 若井翔子(2014). 産褥早期における会陰部痛による日常生活への支障と病院・助産所におけるケア. 母性衛生, 55(2), 342-349
- 渡邊 実香, 久納 智子(2002). 母子同室と母子異室における安静保持・疲労感の比較 ライフコーダによる活動量計測を通しての考察. 愛知母性衛生学会誌, (20), 43-50.
- 渡辺恭良編(2010). 別冊「医学のあゆみ」最新・疲労の科学 日本発：抗疲労・抗過労への提言. 医歯薬出版.
- 山崎 圭子, 齋藤 益子(2012). わが国における産後の疲労感に関する文献検討. 日本母子看護学会誌, 6(2), 31-39.
- 山崎 圭子, 齋藤 益子(2014). 「産後の疲労感」の概念分析. 日本母子看護学会誌, 7(2), 1-10.
- 吉川陽子, 石村由利子, 前原澄子(1980). 分娩による疲労についての検討, 母性衛生, 15(8), 67-78.